

登録販売者試験に高校生が合格 富山県立滑川高校薬業科生徒20名中8名合格 初の快挙の背景は薬業科の教育課程と教師の後押し

(一社)日本置き薬協会

発行 日本置き薬協会事務局

薬業科（過程）のある高校は富山県には同校と、富山北部高校のくすりバイオ科の二学級があり、医薬品製造を担う人材を輩出している。他県ではあまり例がないのではなかろうか。

同校薬業科のホームページには、●製薬、薬理、分析の三領域を幅広く学び、薬に関する総合的な技術、技能の習得 ●実験、実習を重視するとともに、大学薬学部や研究機関と連携し学ぶ意欲を高める ●卒業と同時に毒物劇物取扱責任者資格取得出来るカリキュラムとある。

薬業科では、登録販売者試験制度が見直され受験資格であった実務経験や学歴が不要となった平成27年度以降、薬業科の生徒に挑戦を促してきた。担当教諭は「薬業科の生徒は卒業後、県内製薬企業に就職することが多いため、学校で学ぶことにプラスして薬に関する知識を身に付けさせたいという思いがあった。それは薬業科のカリキュラムが薬の製造につながるものが多いことから、登録販売者の資格をとれば、これまで多く配属されてきた工場での製造ラインや研究、試験等の部署だけでなく、営業などの職種に広がると考えた」とその意図を説明。

例年2、3名の受験はあったが不合格が続いたものの、今年度は一挙に20名のうち8名の合格者を見た。高校生の合格は県内最初で、全国的にも珍しいとのこと。

今年1月に（一社）富山県薬業連合会副会長で配置販社・㈱サプリー代表取締役の八橋謙二氏を招いて「登録販売者の仕事」に関する特別授業を開催するなどして業務内容を周知し、担当教諭からも進路相談等の際に資格取得のメリットを伝えたところ、今年度は受験希望者が3年生6人、2年生14人の計20人となった。

試験には授業で習わない分野もあり、生徒は夏休み中に（一社）富山県薬業連合会研修センターが実施する登録販売者受験対策の特別過程研修（10日間）に参加したり、自主学習に励んだりして試験に臨んだ。9月1日に行われた試験には富山県では718名が受験し、合格率は53.3%だった。

合格者の一人は「将来は客の顔が見える仕事がしたいと思っている。登録販売者の話を聞いた時、この資格を持っていれば、資格を持っていない自分よりも客の姿が良く見えるのではないかと思った。大学進学を目指しているが、進学後にアルバイトした時などには資格を生かしてアドバイスできるような立場になりたい。そのためにも知識を身に付けたい」と抱負を語っている。担当教諭は「20名が挑戦して8名が合格できたことは、まずまずの出来です。登録販売者試験は簡単ではないが、高校生でもがんばれば合格できるものだとずっと思っていたので、生徒がそれを証明してくれました」と語り、今後も希望者を募り、取り組んでいきたいとしている。

同校の前身の一つに昭和10年開校の滑川町立薬業学校（筆者の父が「売薬業」に就く前に在学）は配置販売業のために設立され、その後は県立滑川高校薬業科となり製造業へ、さらに医薬品流通業（ドラッグストア等）を担う人材を育成しようとするのは、時代の流れだろうか。

今回の内容は、業界紙の「薬日新聞」、「家庭薬新聞」記事の一部を抜粋しました。